



第30回上田八木・金融政策サーベイ(2019年9月)の結果について

～全回答者(162先)の85%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。一方で、金利予想では、すべての年限において「低下」と答える先が増加。

2019年9月17日(火)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全回答者(162先)の85%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。なお、前回は5%にとどまった「緩和」の見方は大幅に増加(15%,2016年9月以来)。
- 3か月先の金利予想に関しては、全ての年限で「低下」と回答する先が増加し、2年・10年利付国債については2016年夏以来3年ぶりの水準。
- 「出口開始時期」に関しては、前回同様「3年以上」と回答する先が増加、調査開始以来初めて5割を超えた。

【調査の概要】

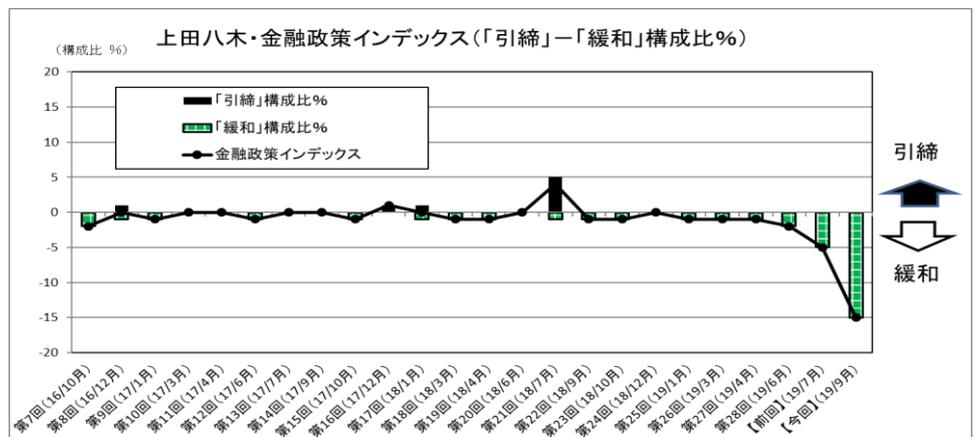
調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(185先)
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見直し
調査方法	2019年9月11日～13日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	87.5% (回答者数162先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(9月18日～9月19日)における決定について

回答者の85%が「不変」の見方。「緩和」の見方は15%。「引締」は0%。

上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「▲15」(前回は▲5)であった。

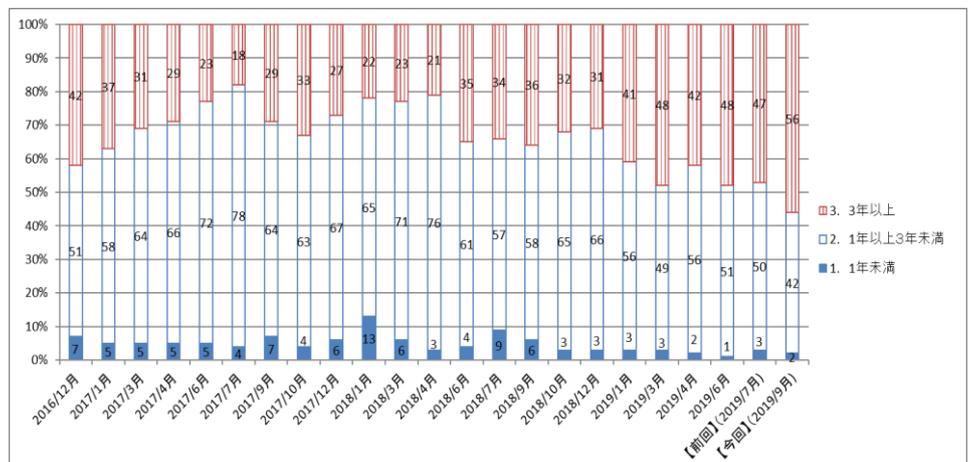


(ご参考)

【追加質問:Q5】

現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

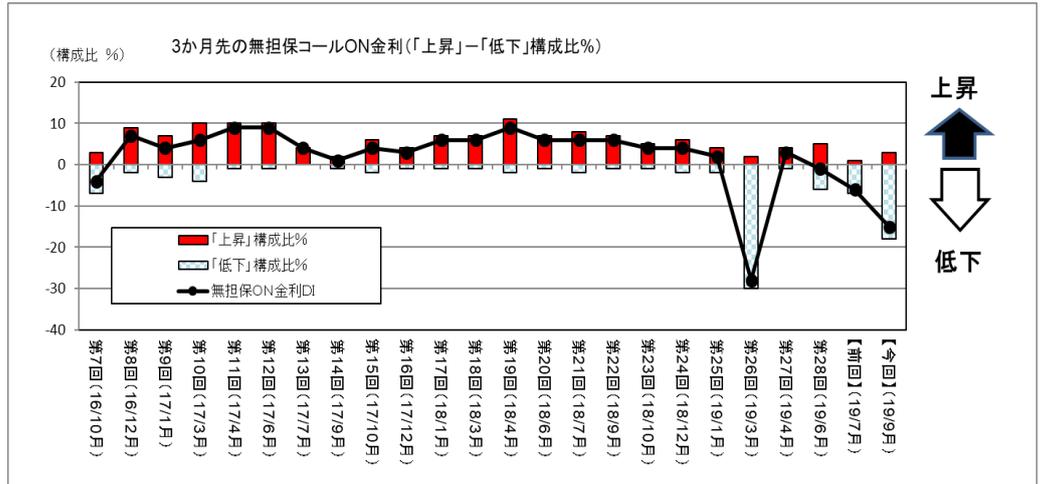
1年以上3年未満と回答する先は42%(前回50%)、3年以上と回答する先も56%(前回47%)



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の79%が「不変」と予想。18%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は3%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+2%ポイント(前回1%→今回3%)。「低下」とみる先は+11%ポイント(前回7%→今回18%)。「不変」とみる先は▲13%ポイント(前回92%→今回79%)。



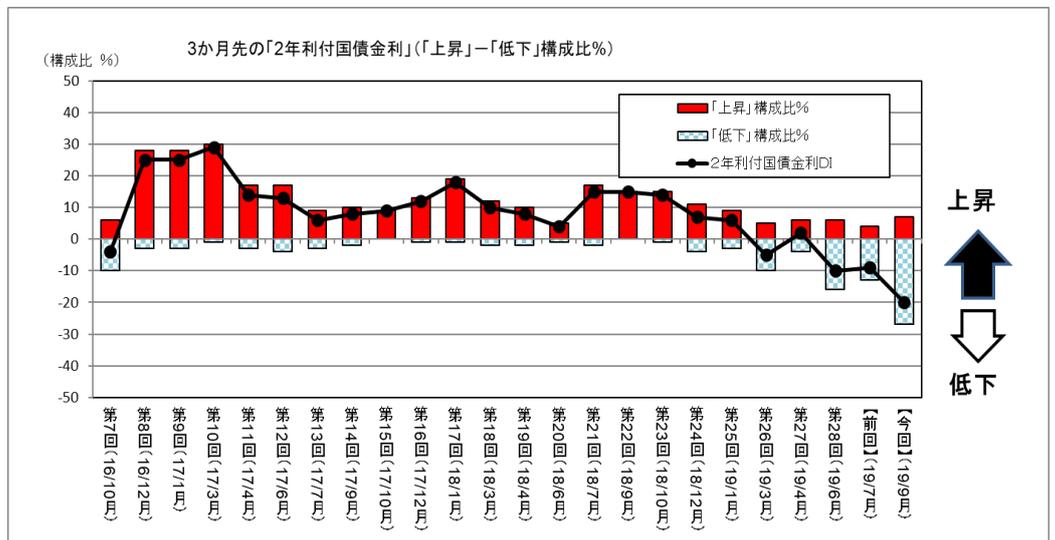
(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

「低下」を予想する回答者27%、2016年9月以来3年ぶりの水準まで増加。「上昇」を予想した先は7%、「不変」を予想した先は6%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先+3%ポイント(前回4%→今回7%)

「低下」とみる先は+14%ポイント(前回13%→今回27%)。

「不変」とみる先は▲17%ポイント(前回83%→今回66%)。



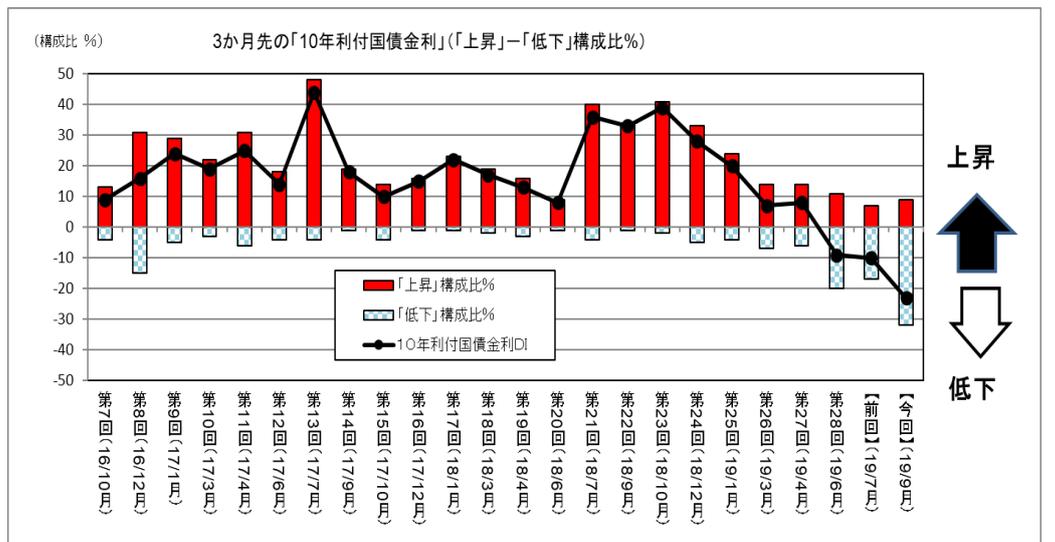
(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

「低下」を予想する回答者32%、2016年7月以来3年ぶりの水準まで増加。「上昇」を予想した先は9%、「不変」を予想した先は59%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+2%ポイント(前回7%→今回9%)。

「低下」とみる先は+15%ポイント(前回17%→今回32%)。

「不変」とみる先は▲17%ポイント(前回76%→今回59%)。



【本調査に関する照会先】 企画部 島本、保元 (電話 03-3272-0293)



第30回上田八木・金融政策サーベイ(2019年9月)

発表日：2019年9月17日（火）14：00 上田八木短資株式会社

調査日	2019年9月11日～13日
調査先	185先
回答率	87.5%

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合（9月18日～9月19日）における決定内容について、どのような結果になるとみているのか。

	(今回)	(前回7月26日)	変化幅
緩和	15 (構成比%)	5	+10
不変	85	95	▲10
引締	0	0	+0
上田八木・金融政策インデックス (「引締め」-「緩和」構成比%)	▲15	▲5	▲10

(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回7月26日)	変化幅
低下	18	7	+11
不変	79	92	▲13
上昇	3	1	+2
短期金利予想DI	▲15	▲6	▲9

(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回7月26日)	変化幅
低下	27	13	+14
不変	66	83	▲17
上昇	7	4	+3
2年国債金利予想DI	▲20	▲9	▲11

(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回7月26日)	変化幅
低下	32	17	+15
不変	59	76	▲17
上昇	9	7	+2
10年国債金利予想DI	▲23	▲10	▲13

(Q5) 現状の金融緩和（オーバーシュートコミットメントを含む）からの出口開始時期はいつ頃か。

(ここでの「出口開始時期」はオーバーシュートコミットメントを考慮したもので、例えば消費者物価が4月に目標にワンタッチした後に6か月後にその時期が来ると予想すると「出口開始」は10月という意味です。資産買入れの残高が減っても物価目標を達成していなければ「出口開始」とはみなしません)

	(今回)	(前回7月26日)	変化幅
1. 1年未満	2%	3%	▲1%
2. 1年以上3年未満	42%	50%	▲8%
3. 3年以上	56%	47%	+9%